

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 105-8589
 住 所 東京都港区芝3丁目2番8号
 氏 名 オリックス自動車株式会社
 代表取締役 亀井 克信 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	オリックス自動車株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区殿町2-9-14		
該当する事業者 の要件	<input type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	70	物品賃貸業
主たる事業 の内容	自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、中古車販売		
事業者の規模	<input type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		k l
	<input checked="" type="checkbox"/> 自動車の台数		163 台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	リスクコンサルティング部
		所在地	東京都港区芝3丁目2番8号
		電話番号	03-6436-6143
		FAX番号	03-6436-6879
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成25年度 ~ 平成27年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

○オリックスグループでは2012年9月にグループの環境方針を以下のように改訂し公表しました。

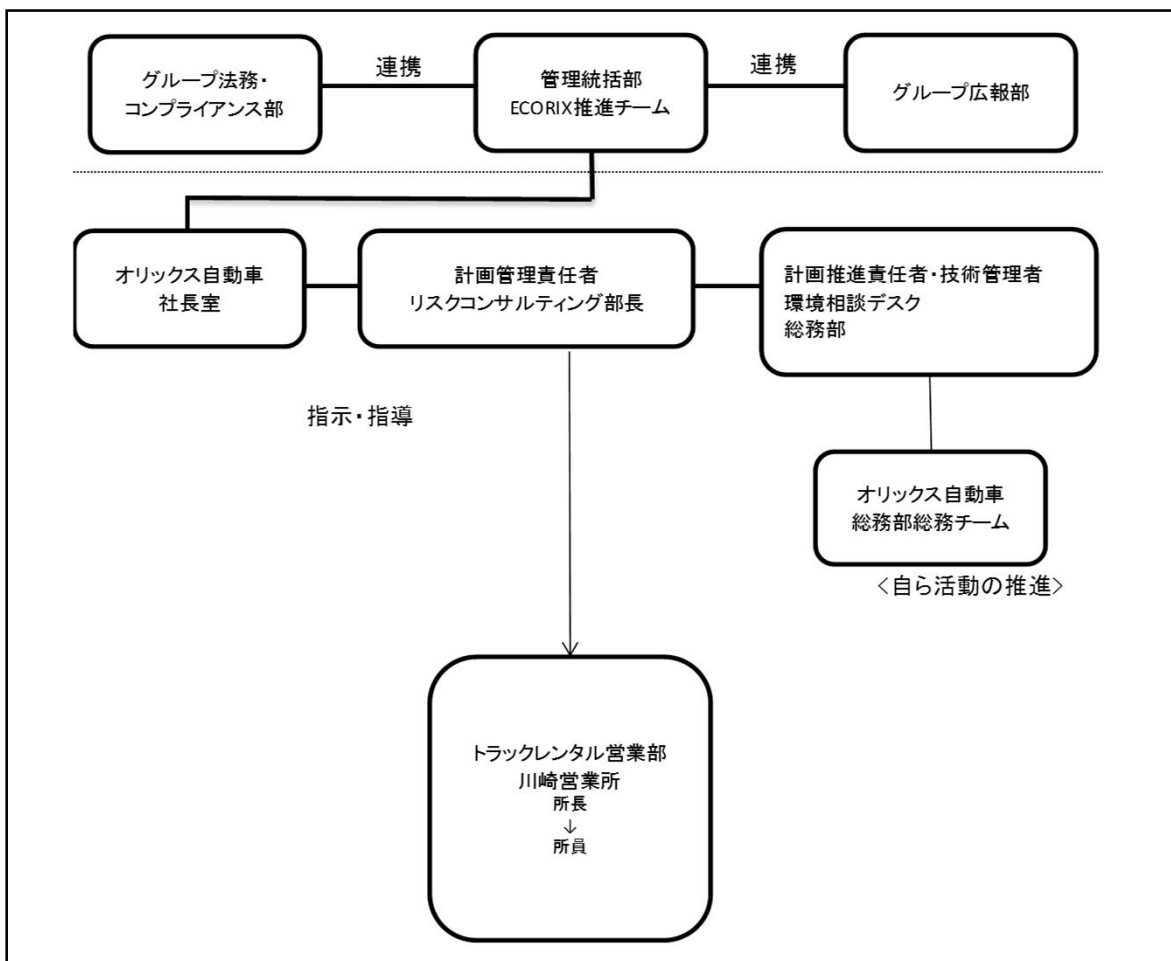
【環境方針】2012/9/25改訂

オリックスグループはお客様や社会のニーズを捉えビジネスを通じて環境・エネルギー問題の解決に貢献します。

また、事業領域の拡大・成長による変化を踏まえ、これに適った対応を進めます。

○これを受けて弊社でもe-テレマを活用したエコドライブを全社的に展開するとともに低燃費車、電気自動車などCO2排出量の少ない車両を積極的に導入して参ります。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



4 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第3号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成24年度	目標年度	平成27年度
基準排出量	(実) 693 t-CO ₂ (調) 693	目標排出量	(実) 686 t-CO ₂
削減率	(実) 1.0 %	削減量	(実) 7 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	走行距離	単 位	t-CO ₂ /km
基準年度の値	0.0003666	目標年度の値	0.0003299
削減率	10.0 %		
走行距離、輸送量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

○レンタカー事業の拡大に伴い、車両台数は平成27年度末には平成24年度末比で110%に増加する見込み。

○一方で低燃費車を導入することで走行距離あたりのCO₂排出量は10%削減を目指したい。よって原単位目標値は車両の燃費性能の向上を見込み10%削減としたい。

○基準年度から車両台数 (= 走行距離) は10%増加、走行距離当りのCO₂排出量は10%削減という二つの要素を組み合わせると
 基準年度排出量 × 1.1 × 0.9 = 基準年度排出量 × 0.99 という目標を設定した。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第1号、第2号、第4号該当者等)</p>	
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第3号該当者等)</p>	<p>○エコドライブの実施（社用車の施策） 総務部とリスクマネジメント室が連携し、エコドライブ推進体制を整備し燃費効率10%改善を目標に取り組む。 テレマティクス（GPS機能を持った車両挙動データをリアルタイムで記録・発信するシステム）のデータを裏付け資料に優秀なドライバーを表彰するとともに、不良ドライバーには、実地研修を実施する。</p> <p>○低燃費車の導入（社用車・レンタカーの施策） 更新時期が来た自動車から順次トップランナー基準達成車など燃費性能が高くCO2排出量の少ない車両を導入する。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

--

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

<p>省エネのための具体的な取り組みは以下の通り実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社用車全てにテレマティクス（GPS機能を持った車両挙動の記録・発信システムであり、エコドライブ管理システムの一つ）を導入（平成22年4月）。川崎市内は5台。 ○安全エコドライブコンテストを全社用車を対象に実施。テレマティクスで得られた実績データをもとに優良ドライバーを表彰し、不良ドライバーについては研修を実施（平成22年4月）。

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

なし

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

イ 第 3 号該当者等

(実)	693	t-CO ₂
(調)	693	

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	
100k _l 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--

9 自動車の使用状況（第3号該当者等）

(1) 車両の種別（前年度末日時点）

総 数		台数	
		163	台
内訳	普通貨物自動車	49	台
	小型貨物自動車	62	台
	大型バス	0	台
	マイクロバス	0	台
	乗用自動車	47	台
	特種自動車	5	台

(2) 燃料の種別（前年度末日時点）

総 数		台数		比率	
		163	台		
内訳	電気自動車	2	台	1.2	%
	天然ガス自動車	0	台	0.0	%
	メタノール自動車	0	台	0.0	%
	ハイブリッド自動車	4	台	2.5	%
	プラグインハイブリッド車	0	台	0.0	%
	燃料電池自動車	0	台	0.0	%
	水素自動車	0	台	0.0	%
	ガソリン自動車(ハイブリッド除く)	60	台	36.8	%
	ディーゼル自動車(ハイブリッド除く)	97	台	59.5	%
	LPGガス車	0	台	0.0	%
	その他	0	台	0.0	%
	うち低燃費車※の台数	50	台	30.7	%

※低燃費車とは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき定められた燃費基準(トップランナー基準)を早期達成している自動車をいう。